

2023年3月期 第1四半期
決算説明資料

2022年8月9日

2023年3月期 第1四半期決算

Y on Y（前年同期比）

原燃料高騰や販管費の増加等により、化学製品、樹脂製品が減益となるも、機能樹脂の値上げが浸透した機能製品の売上増加により、増収増益。

Q on Q（前四半期比）

PVDF、農薬の売上が増加し、家庭用品も季節的に需要期を迎え、前四半期に計上した減損損失がなく、増収増益。

2023年3月期 第2四半期（累計）連結業績予想

Y on Y（前年同期比）

原燃料高騰や販管費の増加等により、化学製品、樹脂製品が減益、産業廃棄物処理の減少により環境分野が減益となるも、機能製品の売上増加により、増収増益。原燃料高騰の影響が強まり、1Qに比べ増益率は縮小する見込み。

当初予想比：

当初予想で想定した主要リスクの一部が顕在化せず、円安効果、値上げ、農薬出荷の前倒し等による売上の増加と、販管費の下期へのずれ込み等により、当初予想を上回る見込み。

想定した主要リスクの全てが払拭されているわけではなく、通期業績予想は、今後の事業環境の変化を踏まえ、第2四半期決算発表時に開示予定。

営業利益実績

（単位：億円）

	2022/3 1Q	2022/3 4Q	2023/3 1Q	Y on Y	Q on Q
機能製品	10	58	56	47	-1
化学製品	-0	-7	-3	-3	4
樹脂製品	23	13	21	-2	8
建設・その他	10	11	7	-3	-4
調整	0	-55	0	-0	55
営業利益 計	43	20	81	39	62

営業利益予想

（単位：億円）

	2022/3 上期 実績	2023/3 上期 当初予想	2023/3 上期 今回予想	Y on Y	当初 予想差
機能製品	26	52	75	49	23
化学製品	12	5	8	-4	3
樹脂製品	51	35	37	-14	2
建設・その他	22	13	13	-9	0
調整	2	-5	-3	-5	2
営業利益 計	114	100	130	16	30

2023年3月期 第1四半期決算の概要 (1)

株式会社クレハ

(単位：億円)

	2022/3	2023/3	増減	
	1Q実績	1Q実績	金額	率
売上収益	378	493	114	30.2%
セグメント別営業利益	42	81	39	92.1%
調整	0	-0	-1	
その他の収益	1	2	1	
その他の費用	1	2	1	
営業利益	43	81	39	91.4%
金融収益	2	4	2	
金融費用	1	1	-1	
税引前四半期利益	44	85	42	95.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	33	55	22	65.3%
1株当たり四半期利益(円)	169.26	279.79		
為替レート (円/\$)	109.5	129.7		
(円/€)	131.9	138.3		
(円/元)	17.0	19.6		

< 前年同期比での主な差異要因 >

〔売上収益〕

リチウムイオン電池 (LiB) バインダー向けPVDFを中心に売上収益が伸長し、増収。

〔セグメント別営業利益〕

機能樹脂が増益となり、増益。

〔営業利益〕

セグメント別営業利益の増加により、増益。

〔親会社四半期利益〕

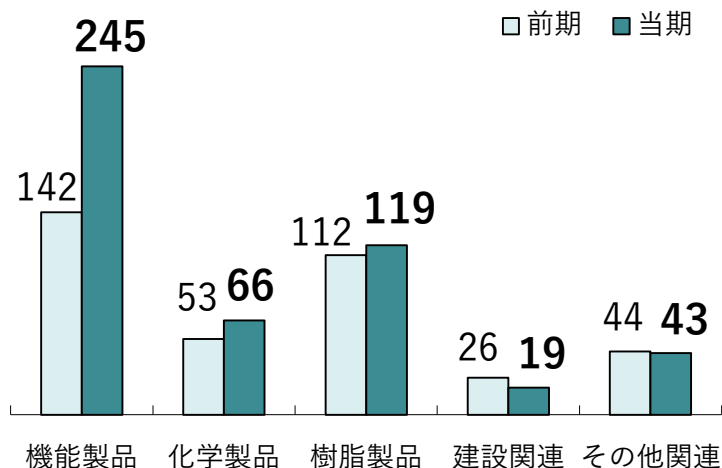
税引前四半期利益の増加により、増益。

KUREHA

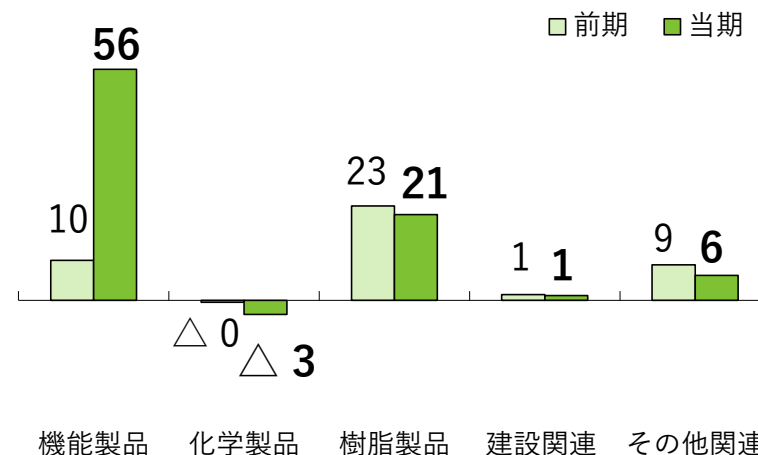
<セグメント別前年同期比較>

(単位：億円)

【売上収益】



【セグメント別営業利益】



<セグメント別 営業利益の主な増減要因>

- 〔機能製品〕 PVDF、PPS、PGA、その他の樹脂加工品などの売上が拡大し、増益。
- 〔化学製品〕 農薬が増収となるも、医薬品の薬価改定と工業薬品の原燃料価格高騰の影響により、減益。
- 〔樹脂製品〕 業務用食品包装材が増収となるも、家庭用ラップ、釣り糸が減収となり、減益。
- 〔建設関連〕 民間工事の減少により、減益。
- 〔その他関連〕 産業廃棄物処理の減少により、減益。

(単位：億円)

	2022年	2023年	増減 額 率	
	3月期	3月期		
	1Q	1Q		
機能樹脂	97	192	95	98%
炭素製品	15	15	1	7%
その他	31	37	6	20%
売上収益	142	245	103	72%
営業利益	10	56	47	481%

<前年同期比> 増収↑ 増益↑

機能樹脂

車載用途が好調なLiBバインダー向けPVDFをはじめ、PPS、PGA樹脂加工品などの売上が増加し、増収・増益。

炭素製品

高温炉用断熱材および自動車部品用摺動材向け炭素繊維の売上は前年同期並みとなり、売上・利益ともに前年同期並み。

(単位：億円)

	2022年 3月期 1Q	2023年 3月期 1Q	増減	
			額	率
農薬	7	16	9	130%
医薬品	12	11	-2	-14%
工業薬品	17	21	4	25%
その他	17	19	2	9%
売上収益	53	66	13	24%
営業利益	-0	-3	-3	-

<前年同期比> 増収↑ 減益↓

医薬・農薬

農業・園芸用殺菌剤の売上が増加するも、慢性腎不全用剤「クレメジン」の売上が減少し、合わせて増収・減益。

工業薬品

無機および有機薬品の売上が増加するも、原燃料価格高騰の影響により、増収・減益。

(単位：億円)

	2022年	2023年	増減	
	3月期	3月期	額	率
	1Q	1Q		
家庭用品	59	58	-1	-2%
釣糸	13	12	-1	-6%
業務用包材	30	38	8	26%
その他	10	11	1	12%
売上収益	112	119	7	6%
営業利益	23	21	-2	-9%

<前年同期比> 増収↑ 減益↓

家庭用品・釣糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」、釣糸「シーガー」の売上が減少し、減収・減益。

業務用包材

熱収縮多層フィルムおよび塩化ビニリデン・フィルムの売上が増加し、増収・増益。

(単位：億円)

	2022年 3月期 1Q	2023年 3月期 1Q	増減	
			額	率
【建設関連】				
建設関連事業	45	39	-6	-13%
連結売上消去	-19	-20	-1	-
売上収益	26	19	-7	-27%
営業利益	1	1	-0	-17%

【その他関連】

環境事業	32	29	-3	-9%
運送事業	20	20	-0	-2%
病院事業	10	11	1	5%
その他	6	6	-0	-2%
連結売上消去	-24	-23	2	-
売上収益	44	43	-1	-3%
営業利益	9	6	-3	-29%

【建設関連】

<前年同期比> 減収 ↓ 減益 ↓

公共工事は前年同期比並みとなるも、民間工事の減少により、減収・減益。

【その他関連】

<前年同期比> 減収 ↓ 減益 ↓

環境事業は、低濃度PCB廃棄物等の産業廃棄物処理の減少により、減収・減益。

運送事業は売上・利益ともに前年同期並み。

病院事業は売上・利益ともに前年同期並み。

財政状態計算書

株式会社クレハ

1. 資産の部

	2022年 3月末	2022年 6月末	増減
現金・現金同等物	306	283	-23
営業・その他債権	358	391	33
棚卸資産	417	461	44
※ 流動資産その他	43	72	29
流動資産計	1,124	1,208	83
有形固定資産	1,144	1,160	15
無形固定資産	40	44	4
投資等	517	495	-22
非流動資産計	1,702	1,699	-3
資産合計	2,826	2,907	81

2. 負債・資本の部

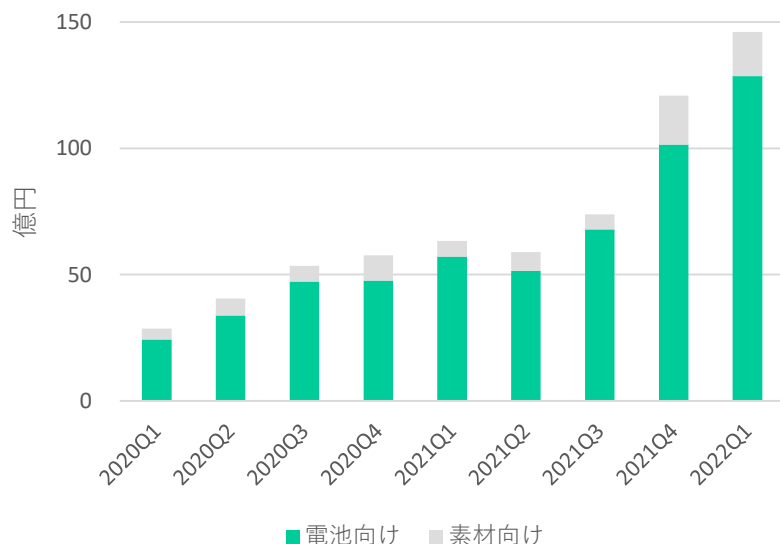
(単位：億円)

	2022年 3月末	2022年 6月末	増減
営業・その他債務	295	295	0
有利子負債	285	308	23
引当金	82	63	-20
その他負債	157	171	14
負債計	819	837	18
資本金	182	182	-
資本剰余金	147	147	-
自己株式	-87	-87	0
利益剰余金	1,660	1,686	26
その他の資本	90	127	37
非支配株主持分	15	15	-0
資本計	2,007	2,070	63
負債・資本合計	2,826	2,907	81

※2022年6月10日に譲渡契約を締結した持分法適用会社、南通滙羽豊有限公司への投資（33億円）を、「投資等」から「流動資産その他」に振り替えております。

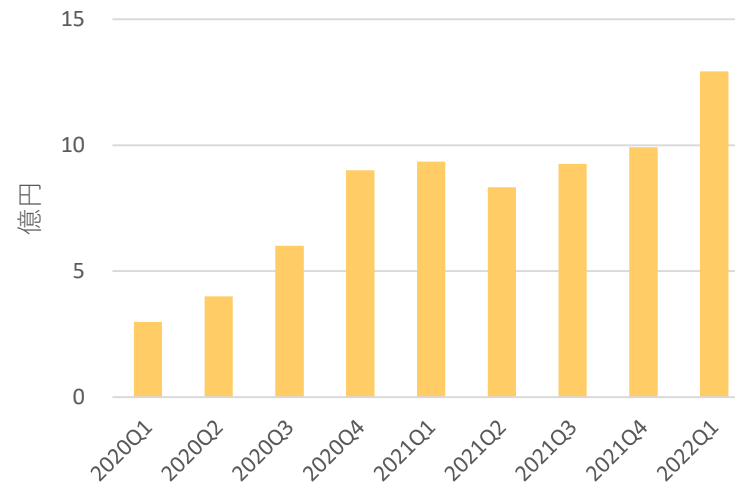
KUREHA

< PVDF売上収益の推移 >



- 電動車（BEV+PHEV）の伸長に伴いLiB市場も拡大が続く。今後も各国のカーボンニュートラルに向けた政策や、主要自動車メーカーの販売方針から長期的な市場拡大を期待。
- 前年度からの原料価格高騰に対し適切な転嫁を進めたこと、特殊ポリマーの比率が拡大していることなどから、増収を継続。

< PGA売上収益の推移 >



- エネルギー価格の上昇や経済活動の回復により、市場環境は緩やかな改善が続く。
- 2020年秋からの柔軟な価格対応が奏功し、高・中温鋳区における自社製フラックプラグのフルボア採用（油井全体での一括採用）が進む。
- 高・中温鋳区はシェア拡大をさらに進め、低温・超低温鋳区では今年度中の改良型PGAプラグ発売を目指す。

2023年3月期第2四半期（累計）業績予想修正 概要（1）

株式会社クレハ

（単位：億円）

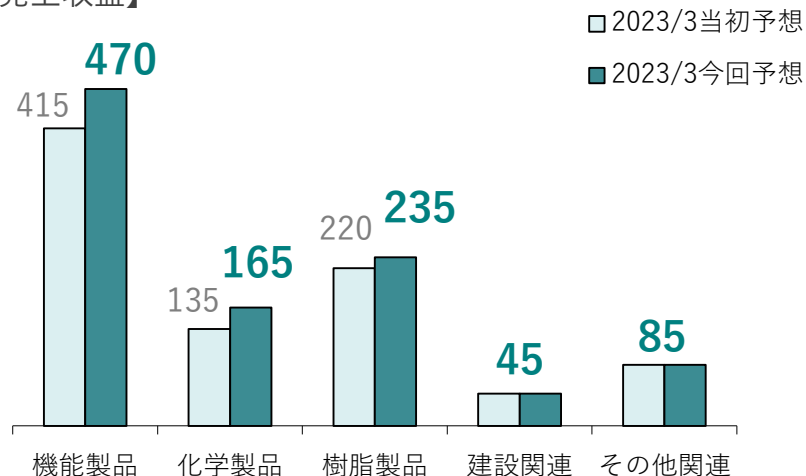
	2022/3	2023/3	増減		2023/3	増減	
	2Q 実績	2Q 今回予想	金額	率	2Q 当初予想	金額	率
売上収益	791	1,000	209	26.5%	900	100	11.1%
セグメント別営業利益	111	133	22	19.6%	105	28	26.7%
調整	0	-	-0		0	-	
その他の収益	5	1	-4		1	-	
その他の費用	2	4	2		6	-2	
営業利益	114	130	16	14.4%	100	30	30.0%
金融収益	2	6	4		2	4	
金融費用	2	1	-1		2	-1	
税引前利益	115	135	20	17.9%	100	35	35.0%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	83	95	12	14.1%	75	20	26.7%
1株当たり当期利益(円)	426.73	486.74			384.27		
為替レート (円/\$)	109.8	131.0			120.0		
(円/€)	130.9	141.0			132.0		
(円/元)	17.0	19.0			18.5		

KUREHA

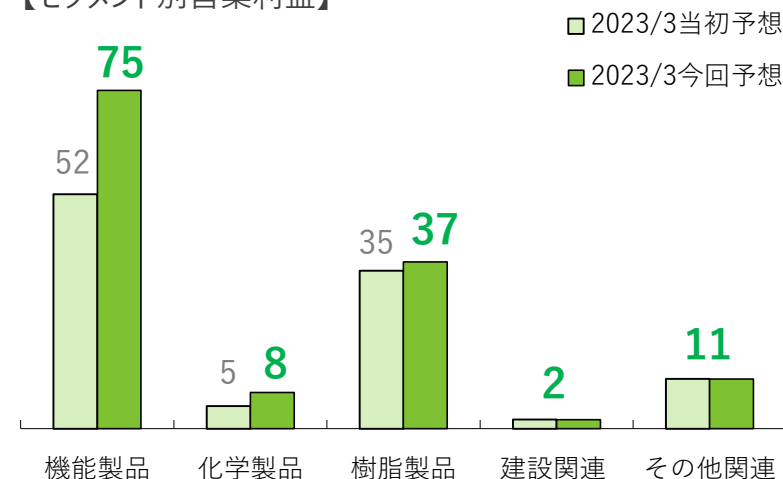
<セグメント別>

（単位：億円）

【売上収益】



【セグメント別営業利益】



<セグメント別営業利益の主な変動ポイント>

- 〔機能製品〕 当初予算で織り込んだリスクの一部が顕在化せず、増益。
- 〔化学製品〕 農薬の出荷が一部下期から期ずれし、増益。
- 〔樹脂製品〕 釣り糸、その他樹脂加工品が上ぶれし、増益。
- 〔建設関連〕 当初予想通り。
- 〔その他関連〕 当初予想通り。

- 当初業績予想（2022年5月12日公表）で想定した主要リスク※は、全てが払拭されたわけではなく、通期業績予想は今後の事業環境の変化を踏まえ、第2四半期決算発表時（2022年11月9日予定）に開示予定。

✓ ウクライナ情勢、中国コロナ禍などのリスクと影響を想定し、業績予想を策定

- ・ 石炭をはじめ原燃料価格の高止まり（一部は価格転嫁）
- ・ インフレ進行による物流費増、樹脂製品の仕入コスト増
- ・ 欧州での電動車・リチウムイオン二次電池市場の拡大鈍化
- ・ 中国ロックダウン拡大によるPVDF、炭素繊維の生産・販売減

※2022年3月期決算説明会資料18ページより抜粋

影響が顕在化、
2Qより売上原価
への影響がさら
に拡大する見込

➤ 対応策

- ・ 原燃料および物流費高騰の価格転嫁

ex. 液体かせいソーダ 8月1日出荷分より+30円/kg以上
家庭用品および業務用包装材 10月1日納入分より+10~35%

- ・ 日本、中国の機能製品各工場の生産最適化と安定供給
- ・ ロックダウンを想定した、生産継続への準備（中国PVDF工場）
- ・ PVDF原料の国内貯蔵施設増強

- 本資料はあくまで当社をより深くご理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- 本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要素により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- 本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。